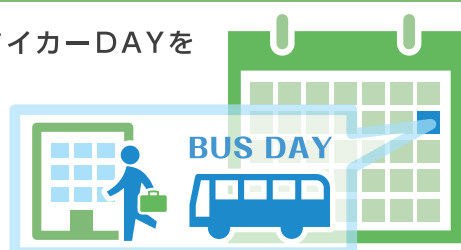


“バスDGs” はじめよう、最初の一步!

バスなどの公共交通を利用することでかんたんにできるSDGs、それが「わった〜バス党」の考える“バスDGs”です。まずは移動手段のひとつとして気軽にバスなどの公共交通の利用を考えてみませんか。

TRY1 まずは 1か月に1回、バスにしよう!

会社全体の取り組みとして、月1や週1のノーマイカーDAYを設定して公共交通の利用を定着させるのもあり。
全社員でムリせずゆる〜くバス通勤に挑戦!
まずは月に1度のバス通勤にトライしてみませんか。



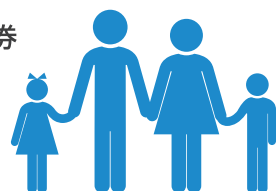
TRY2 お酒を飲む日は、バスに乗ろう!

定例の懇親会や会合、お客様の接待、個人的な飲み会など、お酒を飲む日は車を置いてバスで通勤。駐車場や運転代行手配の心配も必要なく、節約になることも。終バスを理由に早めに切り上げれば飲み過ぎ防止にもなりますね。



TRY3 オフの日はバスに乗ろう。休日はバスがお得!

大人1名につき小学生以下の子ども3名まで運賃無料になる「ファミリー割引(日曜祝日)」や、大人2000円・子ども1000円で乗り放題の「1日限定フリー乗車券(土日祝日)」など、休日はお得な料金で路線バスに乗れます。
買い物や行楽に使ってみるのもおすすめです。



「わった〜バス党」および沖縄県のSDGsの取り組みについての詳細はこちらをチェック!

◆わった〜バス党Webサイト <http://www.watta-bus.com>

◆沖縄県のSDGsの取り組みについて

<https://www.okinawa-sdgs.jp/sdgs/progress/>



— バス(公共交通)×SDGs = “バスDGs” —

今日からはじめる “バスDGs”宣言!



公共交通を利用することでSDGsの実現に貢献できます。

SDGsは誰ひとり取り残さない社会に向けた「17の持続可能な開発目標」のこと。

マイカーの代わりに路線バスやモノレールを利用することも、SDGsの実現につながる取り組みなんです。

このことを広く知ってもらい、実践してもらおうというのが、わたた〜バス党が考える「“バスDGs”宣言」です。

公共交通の維持や交通渋滞の緩和のみならず、CO₂排出量の削減やウチナーンチュの健康問題の解決にも有効な

“バスDGs”で、持続可能な明るい未来へ、出発進行!!

「バスはみんなにやさしい」～公共交通をみんなで守ろう!支えよう!



SDGsの目標のひとつである「住み続けられるまちづくり」の実践には、女性や子ども、障がいのある方や高齢者のニーズに特に配慮し、すべての人に安全で安価、そして容易に利用できる持続可能な輸送システムを提供することが具体的な目標として掲げられています。

沖縄県が策定した「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」では「持続可能な発展と県民生活を支える社会基盤の高度化およびネットワークの形成」の項目で、シームレスな交通体系の整備が掲げられています。

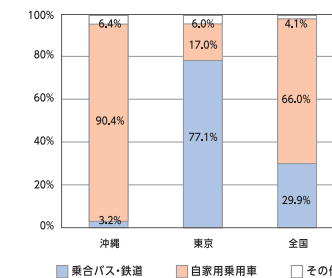
一方で、沖縄県は全国に比べて通勤や通学など日常の移動手段をマイカー利用に頼りすぎており、朝夕を中心に交通渋滞が慢性化していることが深刻な問題で、バスの定時運行にも悪影響を与えています。公共交通分担率は全国平均が29.9%であるのに対し、沖縄県では3.2%というデータがあります。【図1】



【図2】に示すように、県民の自動車保有台数は年々増え続け、それに反比例する形で公共交通利用者数は減少しているものの、沖縄都市モノレール開業以降は、概ね横ばいで推移しています。

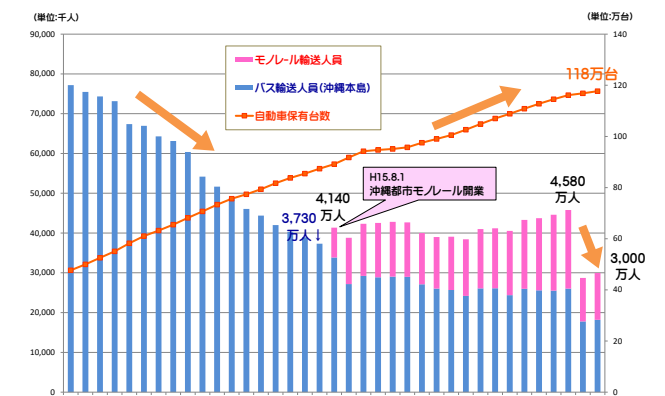
ただし、令和2年度以降のコロナ禍では公共交通の利用者が激減しており、沖縄の公共交通は危機的な状況です。公共交通事業者の経営状況がこのまま悪化し続ければ、減便や路線の減少・廃止のほか、運賃の値上げなどにつながりかねません。

県民みんなで公共交通を利用して、クルマを運転できない方、特に高齢者、障がい者、子ども等のいわゆる交通弱者の暮らしの足を支えていく必要があります。快適な都市機能と安心・安全な暮らしを守るため、過度なマイカー依存からのシフトチェンジが求められているのです。



【図1】機関別旅客輸送分担率
出典：(一財)道路新産業開発機構「道路行政セミナー」2018年1月号
内閣府沖縄総合事務局寄稿「わたた〜バス大実験について」

このままでは大変! 公共交通が危機的状況に



【図2】バス・モノレール 輸送人員と自動車保有台数の推移
出典：沖縄総合事務局運輸部「運輸要覧」、沖縄総合事務局陸運事務所「業務概況」

「バスは地球にやさしい」 ～バス移動でCO₂排出量を削減しよう!



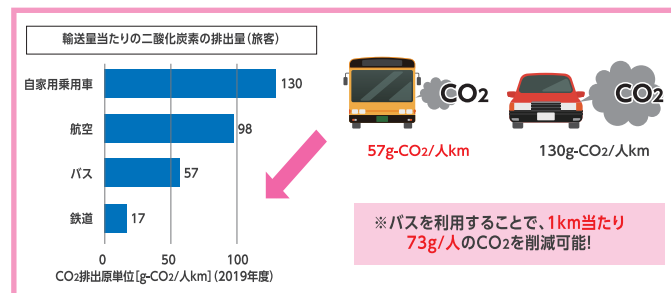
近年、世界各地で巨大台風や気温の上昇、ゲリラ豪雨や海面上昇といった異常気象が起こっており、2040年には地球の気温が産業革命前よりも1.5℃上昇するともいわれています。その原因のひとつがCO₂をはじめとする温室効果ガスの増加によるもので、世界中で排出量の削減が求められています。

周辺を海に囲まれている島嶼県の沖縄は特に地球温暖化の影響を受けやすい地域で、海水温度の上昇によるサンゴ礁の白化・消失が問題となっています。わが県の宝であり大切な観光資源でもある美ら海を守ることは、観光立県にとって非常に重要な課題です。

内閣府沖縄総合事務局の報告書によると、マイカー利用によるCO₂排出量はバスのおよそ2.5倍!【図3】

バスは多くの人を一度に運ぶことができ、マイカーよりCO₂の排出を抑制できます。

県民一人ひとりが積極的に公共交通を利用することもこの島の自然を守るアクションになるのです。



【図3】出典：温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ」、国土交通省「自動車輸送統計」・「内航船舶輸送統計」・「鉄道輸送統計」、内閣府沖縄総合事務局「沖縄の公共交通施策立案等に資するデータ収集と一元化に関する調査及びSDGs実現に向けての公共交通利用促進調査業務報告書」

「バスはカラダにやさしい」 ～「公共交通+歩く」で健康をめざそう!



厚生労働省のデータによると、メタボ(該当者+予備軍者)の割合が全国ワーストとなっている沖縄県。働き盛り世代が職場で受診する健康診断で何らかの異常が見つかる有所見率も全国ワースト。その原因のひとつは県民の運動不足によるものだそうです。マイカー依存で“歩かない”といわれる沖縄県民が気軽に運動(徒歩)

習慣を身に付けられるのが、バス通勤をはじめとする公共交通の利用です。

例えばバス停やモノレール駅まで毎日5分歩くだけでも無理なく運動ができ、体重やBMIの減少が期待できます。【図4】

街や地球にやさしいだけでなく、バスはカラダにもやさしいのです。



さらに運動量アップ!
・歩幅を大きく胸を張って腕を振って歩けば、足全体の筋力UPや猫背防止にも。
・歩くだけで物足りない人は早歩きにチェンジ。消費カロリーがなんと1.3倍に。

【図4】 運動による消費カロリーの例